

進路通信 ～aspiration～ 3年生 休校期間臨時号②

発行元 昭和第一学園高等学校 進路指導部

☆ はじめに

臨時休校期間が続いていますが、みなさん元気になっていますか。体調管理はできていますか。一日も早く普段の生活に戻れるようになることを願い、日々過ごしましょう。

さて、本題に入る前に、前回の通信でこの文章を書いているのは誰かということは一切書きませんでしたので、ここで自己紹介します。申し遅れましたが、進路指導部長の池田良郎です。日本史を主に担当しています。3年生のみなさんと授業で会う機会はありませんでしたが、これまでの進路説明会や部活動・支援センターなどで見たことがある人もいますかと思います。今後、進路指導部からも情報提供と進路指導を行っていきますので、よろしくお願いします。

本題に戻りましょう。すでにみなさん知っているように「STAY HOME」が言われています。学校に通えない、友人に会えないなど不安定な生活が続いている中で、みなさんは毎日どのように過ごしているのでしょうか。自宅でストレッチをして気分転換をしたり、新聞やニュースを見て世の中の状況を学んだり、家事を手伝ったり、自宅学習を進めたりなど、落ち着いて考えれば意外とできることはたくさんあるものです。前回の進路通信の中で、「自分ができるところから始めよう」ということを書きましたが、みなさんはどんな工夫をしているのでしょうか。今回の通信では、一般選抜（一般入試）の成功のポイントと志望理由書について述べたいと思います。

☆ 一般選抜(一般入試)について

一般選抜（一般入試）とは、1月に実施される「大学入学共通テスト」と主に1月末から3月にかけて実施される大学独自の「個別学力試験」のことをいいます。大学入試の最も一般的な方法で、募集定員が最も多くなっています。この「一般選抜」では、従来の筆記試験に加え、「主体性を以て多様な人々と協働して学ぶ態度」をより積極的に評価するため、調査書や志願者本人が記載する資料なども活用される予定です。また、今年度から始まる「大学入学共通テスト」では「知識の理解」を問うものだけでなく、「思考力、判断力、表現力を発揮して解く問題」、すなわち、みなさんが獲得した知識や技能を駆使し、考えて解く問題が出題されます。

今回は一般選抜成功の秘訣について、進学支援センター長・英語科の飯塚英二先生からのコメントを紹介します。

みなさん、こんにちは。進路指導部・進学支援センター長の飯塚です。今回は大学受験に向けて頑張る3年生のみなさんに私からメッセージを送らせていただきます。

◎ 2020年度入試から見る大学受験成功の秘訣

昨年度の3年生のみなさんは、厳しい大学受験事情の中で、なかなか素晴らしい結果を残すことができました。合格者の共通点をまとめると以下の通りです。

(1)3科目(英国社・英数理)のバランスがとれた状態にする

「苦手科目を得意科目でカバーできる」時代は終わりました。3科目のどれかが飛びぬけて苦手だという状態を作らないようにしましょう。

(2)基礎を大切にす

大学ランキングに関係なく、基礎問題で間違えた数が多いほど、合格から遠ざかります。教科書に載っている項目は確実に頭に叩き込んでください。少なくとも今の時期は、いきなり応用問題に取り組むのではなく、主に基礎問題・基本事項の学習を繰り返しましょう。

(3)苦手科目・項目があれば、それを克服する努力を最後まで続ける

自分の状態を正しく知り、自己分析に基づいた弱点補強を行う必要があります。当然、入試ではどの分野が出題されかわからないので、不得意分野を作らないことが合格への近道となります。

(4)模試によって左右されない力を身に着ける

マーク式と記述式、定期考査と実力試験で得点率に差が出すぎないようにすることが目標です。定期考査はできるのに模試でできなくなる人は、復習と知識の定着ができていないのです。試験当日まで学習したことが抜けないように、毎日定着を図りましょう。

◎ 総合型選抜・学校推薦型選抜での入試を考えている高校3年生へ

「自分は推薦入試で受験するから勉強は不要」なんて甘い考えを持っていませんか？

総合型選抜・学校推薦型選抜であろうと、一般選抜であろうと、勉強をする上で一番の敵は「思い込み」だということを知っていますか？ 自分の思い込みで単語の意味を読み違えたり、文章題で要求されていることを取り違えたりするものなのです。ましてや、みなさんの入試から、与えられた材料から様々な情報を読み取る能力が要求されているのです。思い込みこそ最大の敵、ということを忘れずに、総合型選抜・学校推薦型選抜で受験するにしても勉強は継続しましょう。やはり「基礎事項の習得」を大切に日々の勉強に取り組むことが肝心です。

飯塚先生のコメントにもあるように、継続した学習が合格のカギを握ります。臨時休校中で十分に学習環境が整っている状態ではないかもしれませんが、家庭内にある教材で取り組んでみてください。駿台映像授業を活用する方法もあります。みなさんの工夫次第で学習は継続できます。

☆ 志望理由書(エントリーシート)について

志望理由書は、総合型選抜・学校推薦型選抜などを受験する際に、ほとんどの大学や専門学校で提出が求められる書類です。学校によっては、「自己推薦書」「エントリーシート」と呼ぶこともあります。書類審査の判断基準になるだけでなく、その後の面接試験でも使用されるため、これらの書類の内容が合否に大きく影響します。

前回の通信ではワークシートを添付して、学びたいことや大学・専門学校等で学べる内容などを整理できるようにしました。すでに作業に取り組んでいる人もいるのではないかと思います。今回は志望理由書の一般的な書き方について説明します。

基本的に志望理由書は、「過去 (きっかけ)」「現在 (今考えていること)」「未来 (将来どうなりたいのか)」を述べます。次のページにアウトラインの一例があるので参考にしてください。

大学・短期大学に関しては、同じ学部学科名であっても、大学によって学べる内容や研究内容が異なる場合があります。特に大学の教授はそれぞれ専門とする研究分野を持っているので、将来、ゼミナールや研究室に入るとき、それぞれの教授がどのようなことを専門に研究しているのかは確認をする必要があります。

専門学校では、就職した後の仕事の実態を把握しましょう。表面上見える部分だけではなく、裏でどのようなことをしているのか。最も大変なことはどんなことなのかを知りましょう。

志望理由書のアウトライン（一例）

- ① 将来の目標…「私はこのような目標を持っている」 就きたい職業などを具体的に述べる
↓
- ② なぜその目標を考えたのか…「私はこのような体験をし、こういう課題を発見した」
志望したきっかけ・社会的課題の解決方法を考える
↓
- ③ 目標達成のために必要なこと…「実現するためには、こういう学びが必要である」
必要と考えられる学問分野、資格など
↓
- ④ 志望校で何をするのか…「志望先では、このようなことを学ぶことができる」
具体的なゼミ・研究室の内容、授業、資格取得のための対策など

それでは、各学校ではどれくらいの字数が課されるのでしょうか。大学だとおおむね 800～1200 字程度、専門学校で 600～800 字前後が目安かと思います。特に指定校推薦の課題の場合、多いところで 1200～2000 字以上を求める場合があります。今回、「進路の手引き」にもある原稿用紙（800 字「原稿用紙 1・2」）を添付しますので、自分が現在考えている志望理由で字数を埋めることができるか、首尾一貫した文章が作れるかどうか挑戦しましょう。

☆ 進路指導部からの連絡

I. 駿台映像授業について

総合進学コース・工学科の人には、すでに駿台映像授業活用マニュアル（ログインID・初期パスワード）を郵送しており、4月23日前後に届いているかと思います。マニュアルの指示に従って是非登録してください。

一般選抜を含め学科試験が課される大学を受験したいと考えている人は、この臨時休校期間を使って弱点の克服を行いましょう。映像授業を見ることができる人は、映像を見ながら・テストをやりながら苦手分野を無くしてください。

II. オープンキャンパス・入試情報について

各大学・専門学校のホームページには続々とオープンキャンパスや入試に関する情報が掲載されています。大学・専門学校ともに何校かを比較検討することが大切です。新型コロナウイルスが落ち着いてから実際に学校見学をすることになりますが、一部の大学ではホームページ内に「Web オープンキャンパス」という形で学内を見ることができるサイトもあります。これらのサイトを駆使しながら、志望理由書の作成等に取り組んでみましょう。

III. 生活の記録について

1・2年生の進路通信にある「生活の記録」も添付します。今朝の体温を測った上で、「生活面・体調管理面」「学習面」の目標を書き、「一日を振り返って」で何ができて何ができなかったかを文章で整理しましょう。

